

幼児体育研究室（梁川悦美先生）

▶梁川先生はどのような研究や活動に取り組んでいますか？

主に「心と体の健康」や「子どもと遊び」に関する研究をしています。子どもの体力や運動能力は勿論、子どもが好きな遊びは何だろう、子どもと一緒に楽しく遊ぶために必要な保育者の素養って何だろう…など、子どもの成長に欠かせない事は何かを常に念頭において研究をしています。特に、健康や運動遊びに関する授業を担当しているので、将来保育者になる学生たちに、是非身に付けて欲しい実践力を学生と共に考え、動きを作ったりもしています。今は、子どものためのリズム体操にハマっています。学生たちも、実は子どもの頃に経験したことがない遊びや遊び方がたくさんあって、授業では、色々な遊びを紹介したり、自分たちが遊んで楽しかった遊びをみんなで一緒に遊んだりもしています。保育者が遊ぶ楽しさを知らなかったら、子どもたちも遊ぶ楽しさを知らないまま幼児期を過ごす事になってしまいます。保育者は遊びのリーダー的存在です。だからこそ、知らなかった遊びに興味をもって、遊ぶことが楽しい保育者になって欲しい！子どもたちの健やかな心と体の成長を支える保育者になって欲しい！

そんな思いをもって、笑顔いっぱい、ダイナミックに子どもたちと遊べる保育者養成を目指しています。

▶この研究室やゼミ（4年次）のことについて教えてください。

私のゼミでの卒業研究は、テーマとして「子どもが元気になる」内容について指導しています。幼児期だからこそ育てたい力、経験させたい遊び、遊び方、遊び道具の変遷、リズム体操など、現場で活用できる実践力に繋がる内容を深めたい学生が多くやってきます。勿論、それぞれの学生の興味関心が様々にあるので、研究の「落としどころ」を大事にして、論文作成やリズム体操の動画作成など、多方面にわたって研究を進め、卒業論文や動画制作をしています。また、ゼミ生たちとの関わりも深く、他者の意見を聞いたり、共感したり、同じ思いを巡らせながら共同研究に繋がったりもしています。

学生たちは、自発的で、自分の意志をしっかり持ち得て、そして積極的に学びを深めています。特に、ここ最近の卒業研究で目を惹いたのが、絵本と運動遊びを融合させた研究です。保育現場では、子どもたちの周りがある環境がそれぞれ別だてではなく、様々に関わり合っていて興味関心持つ事で、子どもたちの楽しい活動に繋がっている、ということです。

志をもって家政大学に入学し、様々な学びを深めてきた結果が、ゼミ生同士の楽しくて優しい雰囲気を醸し出しているのだらうと思います。毎年、感動の連続です。

[参考]

https://drive.google.com/file/d/17th3wWhdhUjKikOOOfxPRxdiCUSegMJ/view?usp=share_link